

会 記

日本昆虫学会 2013 年度評議員会報告



日時 2013 年 9 月 13 日（金）15：00-18：00

場所 北海道大学（札幌市） 農学部 S21 講義室

出席者（敬称略） [評議員]（北海道）秋元信一（将来問題検討委員長），大原昌宏，（東北）郷右近勝夫，中村剛之，（関東）久保田耕平，五箇公一，矢後勝也，（東海）塚田森生，田上陽介，（信越）東城幸治，（近畿）金沢至（電子化推進委員長），松本吏樹郎，石井実（自然保護委員長），八尋克郎，（中国）三浦一芸，竹松葉子，（四国）吉富博之，大原賢二，（九州）阿部芳久（日本昆虫科学連合日本昆虫学会代表），徳田誠，坂巻祥孝，紙谷聡志（日本の昆虫編集委員長），[本部]沼田英治（会長，国際昆虫学会議評議員），小野正人（副会長，選挙管理委員長），後藤慎介，吉村真由美（庶務幹事），佐藤宏明（会計幹事，日本 ICIPE 協会日本昆虫学会代表），篠原明彦（渉外・本部事務幹事，日本分類学会連合昆虫学会代表），神保宇嗣（図書幹事，関東評議員），[委員長等]（評議員以外）中尾史郎，大島一正（会計監査），市岡孝朗（編集委員長），三枝豊平（日本昆虫目録編集委員長）

I. 会務報告

1. 庶務幹事報告

- 1) 2013 年 9 月 1 日現在の会員総数は 1173 名（一般正会員 921 名，学生正会員 174 名，海外正会員 20 名，団体会員 42 団体，賛助会員 4 名，名誉会員 12 名）である（寄贈会員 31 名を加えて 1204 名）。退会処理予備群である 3 年以上の会費滞納者（2011 年度から 2012 年末日を納入期限とした 2013 年度分会費まで）は，正会員 38 名。なお，2012 年末時点で 2010 年度から 2012 年度分までの 3 年分の会費を滞納していた会員 36 名を，日本昆虫学会会則第 8 条および第 11 条 2 により退会とした。
- 2) 将来問題検討委員会規定の改正案に関して 2013 年 2 月 1 日締め切りの通信評議員会に諮った。提案された意見をもとに修正改正案を提出し，2013 年 2 月 12 日締め切りの通信評議員会に諮った結果，承認された。改正された規定は昆蟲（ニューシリーズ）16(2)に掲載された。
- 3) 近畿支部幹事を八木剛会員より松本吏樹郎会員に交代した。住所等は昆蟲（ニューシリーズ）16（2）に掲載された。
- 4) 自然保護委員会規程第 2 条により，2013-2014 年度の自然保護委員を以下のとおり選出した（2013 年 2 月 10 日）。（敬称略）北海道：大原昌宏，東北：三田村敏正，関東：矢後勝也，東海：山岸健三，信越：藤山静雄，近畿：中尾史郎，中国：鶴崎展巨，四国：吉富博之，九州：荒谷邦雄。
- 5) 電子化推進委員会規程第 2 条により，2013-2014 年度の電子化推進委員を 7 名の会員（敬称略：伊東憲正，祝輝男，紙谷聡志，中谷至伸，沢田佳久，杉浦真治，吉澤和徳）に委嘱することが承認された。また，電子化推進委員会規程第 3 条により沢田佳久会員，杉浦真治会員にウェブサイト管理ワーキンググループを委嘱した。（2013 年 2 月 15 日）
- 6) 会長から将来問題検討委員会に対して，以下のとおり諮問がなされた。

2013 年 2 月 17 日

日本昆虫学会将来問題検討委員会
委員長 秋元 信一 様

日本昆虫学会
会長 沼田 英治

将来問題検討委員会への諮問

将来問題検討委員会において，下記の 4 点についてご検討ください。1～3 については本年 4 月末まで，4 については 12 月末までに答申いただくようお願いいたします。

1. 選挙制度の検討：評議員選挙の投票率改善のための方法について検討をお願いします。

2. 学会の授与する各賞のありかた：学会賞・若手奨励賞・あきつ賞の位置づけについて検討をお願いします。
3. ジェンダーバランスの改善策：女性会員・評議員の増加を促す方法について検討をお願いします。
4. 会員の増加策：多田内前会長が昨年4月に諮問されたものですが、引き続き検討をお願いします。
- 7) 日本の昆虫編集委員会規程第1条3により、6名の会員（敬称略：坂巻祥孝，中村剛之，広渡俊哉，丸山宗利，山田量崇，山根正気）に2013-2014年度同委員を委嘱することが2013年3月13日締め切りの通信評議員会で承認された。
- 8) 大阪市立自然史博物館自然史オープンセミナー（5月）「ゴケグモ類の現状と問題」（2013年5月18日（土），大阪市立自然史博物館講堂）に関する，本学会の後援名義の使用許可申請があり，承認した。
- 9) 2013年6月に任期満了となる日本昆虫科学連合日本昆虫学会代表について，以下の案を2013年4月30日締め切りの通信評議員会に諮り，承認された。
 1. 多田内修会員の任期を1年延長し2014年6月までとする。
 2. 友国雅章会員の後任として阿部芳久会員を推薦し，任期は2014年6月までとする。
- 10) 2013年度若手奨励賞に10件の応募があった。2013年5月17日締め切りの候補者決定投票の結果，丸山宗利会員が候補者となった。5月27日締め切りの候補者の受賞の賛否についての投票の結果，同会員の受賞が決定した。
- 11) 財団法人国際花と緑の博覧会記念協会からコスモスセミナー自然観察教室“集まれ昆虫好きな子供たち2013”（2013年8月6日～8日開催）に関する本学会の後援名義の使用許可申請があり，承認した。
- 12) 2013年度学会賞の候補論文を推薦する投票は，評議員と編集委員長，編集委員により，2013年6月12日締め切りで行われ，5論文が候補となった。6月22日締め切りの評議員による候補論文に対する投票の結果，以下の2論文の受賞が決定した。
 YUKAWA, J., IKENAGA, H., SATO, S., TOKUDA, M., GANAHA-KIKUMURA, T., UECHI, N., MATSUO, K., MISHIMA, M., TUNG, G.-S., PAIK, J.-C., REN, B.-Q. and DONG, X.-Y. (2012) Description and ecological traits of a new species of *Pitydiplosis* (Diptera: Cecidomyiidae) that induces leaf galls on *Pueraria* (Fabaceae) in East Asia, with a possible diversification scenario of intraspecific groups. *Entomological Science* 15: 81–98.
 YOSHIZAWA, K. and WAGATSUMA, M. (2012) Phylogenetic relationships among superfamilies of Cicadomorpha (Hemiptera: Auchenorrhyncha) inferred from the wing base structure. *Entomological Science* 15: 408–421.
- 13) 2013年6月11日に，生物科学学会連合より「日本版NIH（仮称）」構想に対する緊急の声明を出すこととなり，執行部で検討した結果，会長名で賛成することを決定した。
<http://www.nacos.com/seikaren/>
- 14) 日本昆虫目録編集委員に石川忠会員と吉富博之会員を追加することが提案され，2013年6月28日締め切りの通信評議員会において，承認された。
- 15) 東北支部幹事が佐藤智会員より長澤淳彦会員に交代した。住所等は昆虫（ニューシリーズ）16(4)に掲載された
- 16) 日本昆虫学会の精細なロゴを作成した。今後，大会等で必要な場合は庶務幹事までお問い合わせいただきたい。
- 17) 昆虫科学連合より「日本版NIH構想に対するコメント（案）」が提案され，加盟団体での審議の上，問題がなければ連合のHPで発表するとともに，関係省庁（総合科学技術会議，文部科学省）に提出することとなった。2013年8月27日締め切りのメールによる通信評議員会で意見を募った結果，異議はなかった。1名の評議員から「要望書という形が良いのではないか」という意見があった。これら昆虫学会としての意見は多田内・阿部代表委員を通して昆虫科学連合に報告された。

（庶務幹事 後藤慎介・吉村真由美）

2. 会計幹事報告

2013 年度会計中間報告は別紙 1 のとおりである。

(会計幹事 佐藤宏明)

3. 図書幹事報告

学会の交換雑誌に関する対応を経常的に行っている。

- 1) 会誌バックナンバーの無償譲渡および廃棄
研究機関や図書館、会員等を対象にした 1997 年以前の会誌バックナンバーの無償譲渡について、申し込みのあった 18 件合計 1,234 冊の譲渡を完了した。残りの在庫に関しては、評議員会での議決に基づき、学会永久保管分 1 部（図書幹事が管理）を残して廃棄した。
- 2) 国立情報学研究所 CiNii からのコンテンツ公開条件更新
国立情報学研究所からのバックナンバー公開条件の確認と更新の照会があり、現行条件で更新した。あわせて、登録住所を筑波研究施設に変更申請した。
- 3) 交換先変更リマインダの送付
昆虫学会の住所および担当者変更のリマインダを寄贈・交換先に送付した。

(図書幹事 神保宇嗣)

4. 編集委員会報告

- 1) 英文誌 Entomological Science 編集報告

1. 編集状況

- ・2012年受領論文（月別投稿数は8月より順に18, 18, 24, 24, 18）

国・地域	受領	採択	却下	採択率 (%)
日本	53	37	16	69.8
その他アジア	102	9	93	8.8
ヨーロッパ	35	11	24	31.4
北米	6	2	4	33.3
中南米	14	2	12	14.3
アフリカ	13	1	12	7.7
オセアニア	1	1	0	100.0
合計	224	63	161	28.1

- ・2013年受領論文（7月31日現在、月別投稿数は1月より順に23, 11, 22, 21, 16, 20, 25）

国・地域	受領	採択	却下	未決
日本	29	10	9	10
その他アジア	68	2	55	11
ヨーロッパ	19	3	11	5
北米	1	0	0	1
中南米	15	1	11	3
アフリカ	6	0	6	0
オセアニア	0	0	0	0
合計	138	16	92	30

- ・16巻1号1月5日発行。掲載数15編。
- ・16巻2号4月5日発行。掲載数18編。
- ・16巻3号7月5日発行。掲載数13編。
- ・16巻4号10月5日発行予定。掲載予定数6編。
- ・17巻1号2014年1月5日発行予定。掲載予定数未定。

2. その他

• Virtual Issueの発行

Interactions between Insects and Mites (Okabe, Kimiko)

Diapause - a Principal Seasonal Adaptation in Insects (Hodek, Ivo)

The Biology and Ecology of Social Wasps (Gadagkar, Raghavendra)

Biology of Ants (Ito, Fuminori)

The Biology of Insects in the Ryukyu Archipelago, June 2010 (Tsuji, Kazuki)

Evolutionary Biology of Parasitoid Wasps, April 2010 (La Salle, John)

• Invited Reviewの掲載 (14巻1号より始まった毎号1編の掲載を現在も継続) .

• Entomological ScienceのImpact Factorが公表された.

2012年版 (最新) の数値は0.981 (38/87位(前年度48/85位)), 前年より0.308ポイントの大幅増). Eigenfactor Scoreは0.00123 (47/87位) (前年度53/85位, 前年0.00088) .

• 冊子体発行の取扱, 投稿規約 (引用文献の順序など) , Zoobank登録の義務化などについて意見交換・議論をおこなった.

2) 和文誌「昆虫 (ニューシリーズ)」編集報告

1. 編集状況

• 2012 年受領論文総数は 18 編 (昨年 15 編). 内, 受理 17 編, 却下・取り下げ 1 編 (受理率 94.4%/昨年は 93.3%). 月別投稿数は 8 月より順に, 1, 0, 1, 3, 0.

• 2013 年受領論文数は 8 月 1 日現在 12 編 (13 編). 内, 受理 5 編, 査読中 7 編, 却下・取り下げ 0 編. 月別投稿数は 1 月より順に, 3, 2, 1, 1, 3, 0, 2.

• 15 巻掲載論文

4 号: 原著論文 6, 博物館だより 1, あきつ賞 1.

• 16 巻掲載論文

1 号: 原著論文 4, あきつ賞 1.

2 号: 原著論文 3, フォーラム 1, あきつ賞 1.

3 号: 原著論文 2, 新記録ノート 1, 博物館だより 1, あきつ賞 1.

4 号 (予定): 原著論文 3, 短報 1, 新記録ノート 1, あきつ賞 1.

(委員長 市岡孝朗)

5. 自然保護委員会報告

2013 年度 第 1 回の委員会を 9 月 13 日 (金) 14~15 時に北海道大学農学部 3 階 S31 講義室において開催し, 以下の事項について協議した.

出席者: 石井実 (委員長)、大原昌宏、三田村敏正、矢後勝也、藤山静雄、山岸健三、中尾史郎、鶴崎展巨、吉富博之、荒谷邦雄、岸本年郎 (順不同、敬称略)

1. 第 73 回大会における本委員会主催のシンポジウムについて

テーマ: RDB 昆虫の現状と課題: 新たに選定された環境省第 4 次レッドリスト昆虫種

主催: 日本昆虫学会自然保護委員会

企画者・世話人: 石井 実・大原昌宏

日時: 2013 年 9 月 15 日 (日) 13:00~16:00

場所: 大会 A 会場 (1 階 N11 講義室)

内容:

石井 実 (大阪府立大学) 環境省第 4 次レッドリストについて

丸山宗利 (九州大学) レッドリストからみた日本産甲虫の現状

大原賢二 (前徳島県立博物館) レッドリストからみた日本産双翅目の現状

多田内修 (九州大学) 第 4 次レッドリストからみた日本産ハチ目の現状

2. 第 74 回大会における本委員会主催のシンポジウムについて

3. 要望書の提出について

鳥取県鳥取市の湖山池において, 2012 年 3 月に日本海につながる湖山川の水門が開放され, 16 世紀末以降これまで 400 年以上にわたって一度も経験したことのない高濃度の塩分にさらされている. その結果, 鳥取県特定希少野生動植物のカラスガイが絶滅寸前になっているほか, 多くの水生植物やトンボ類も消滅するなど, 同池の生物多

様性は大きく損なわれてしまった。この事業は、専門家への意見聴取や環境アセスメントを行うことなく鳥取県・鳥取市により実施されたものであるとして、昨年（2012年）12月、鶴崎委員より本会自然保護委員会が地元の環境団体とともに、鳥取県知事および鳥取市長に対して、事業の見直しについての要望書を提出することが提案された。この件について、通信委員会により昨年度の本委員会に諮ったところ、異議なく了解が得られたことから、他の11団体と連名で今年（2013年）2月に鳥取県知事に、3月には鳥取市長に、それぞれ「湖山川水門開放による湖山池の高塩分化事業の見直しの要望書」を提出した。

連名で提出した団体は以下のとおりである。鳥取県生物学会、NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部、鳥取自然保護の会、鳥取地学会、自然と親しむ会、日本自然保護協会自然観察指導員鳥取連絡会、鳥取昆虫同好会、倉吉野鳥の会、山陰むしの会、レッドデータブックとっとり2012執筆担当者一同、日本鱗翅学会中国支部、日本昆虫学会自然保護委員会（掲載順）。

4. 環境行政の動向について

(1) 種の保全法の一部改正について

希少野生動植物種の違法な譲渡し等に係る罰則の強化、譲渡し等が禁止されている希少野生動植物種の陳列に加えて、広告（インターネットまたは紙媒体等への掲載等）の禁止などが盛り込まれた。なお、国会での決議（5月23日衆議院、6月4日参議院）の際に11項目におよぶ「附帯決議」が付けられた。

(2) 外来生物法の一部改正について

特定外来生物が交雑して生じた生物の特定外来生物指定、学術研究のための特定外来生物の放出の許可、輸入物資に付着・混入した特定外来生物の消毒措置などが盛り込まれた。

(3) 愛知目標達成のための侵略的外来種リストの作成について

COP10において採択された「愛知目標」の個別目標9において、「2020年までに侵略的外来種及びその定着経路が特定される」等が掲げられていることから、昨年度から環境省により愛知目標達成のための侵略的外来種リストの作成作業が進められている。リスト作成の基本方針が固まりつつあることから、現在、環境省は中間段階のリストを各学会へ送付し、意見聴取を行っている。

5. その他

（委員長 石井 実）

6. 日本の昆虫編集委員会報告

1) 編集委員の追加等について

半翅目の担当として山田量崇会員、鱗翅目の担当として坂巻祥孝会員が新たに委員に就任した。また、鞘翅目担当を野村周平会員から丸山宗利会員に交代した。

2) 「The Insects of Japan 日本の昆虫」の販売状況（販売数）

Vol. 1. Terayama, M. Bethylidae (Hymenoptera). 314 pp. 8,000 円（410+1=411 冊）。

Vol. 2. Okajima, S. The Suborder Tubulifera ‘Thysanoptera’. 720 pp. 11,000 円（401+1=402 冊）。

Vol. 3. Morimoto, K., H. Kojima & S. Miyakawa. Curculionoidea: General Introduction and Curculionidae: Entiminae (Part 1). Phyllobiini, Polydrusini and Cyphicerini (Coleoptera). 406 pp. 9,000 円（605+1=606 冊）。

3) 原稿募集について

現在、Vol. 4 として *Cosmopterix* 属（執筆：黒子浩氏）を編集作業中である。Vol.5 以降の原稿も随時募集している。詳しい執筆要領と編集委員会規定は学会ホームページを参照のこと。

（委員長 紙谷聡志）

7. 電子化推進委員会報告

1) ホームページの移転

学協会情報発信サービスを利用していた学会ホームページを、2011年4月1日に <http://www.entsoc.jp> に完全移行したばかりであるが、この独自ドメインによるレンタルサーバを管理している業者が、このサービスを2014年2月28日で終了すると最近になって通知してきた。もちろん、付随している「日本昆虫学会の会員登録システム」も終了となる。これより情報を収集し、大会時の電子化推進委員会で移行に関する原案を作成して報告する予定である。データとシステムをそのまま単純に移行するだけでも困難を伴うことが予想されるが、名簿管理等の諸問題を解決する好機ととらえている。

2) オンライン投票

学会賞および若手賞の投票に関して、今年度もオンライン投票を行い、計4回の投票を終えた。今回も、会員データベースに登録されているメールアドレスと、実際に使用しているアドレスの違いによる問題が生じた。この投票システムはホームページが移転しても維持できる可能性が高いので、評議員、編集委員の方は、投票案内のあったメールアドレスを使って、投票を行っていただきたい。

3) あきつ賞

担当者が大会の準備で忙殺されていたことから、例年のスケジュールで募集を行うことができなかった。電子化推進委員会で意見集約し、学会賞に関する評議員会の議論を拝見して、必要であれば、大会後に募集を行いたい。

4) ワーキンググループのメンバーなどの見直し

ワーキンググループメンバーの交代が提案されており、この機会に電子化推進委員会で全面的なメンバー及び担当の見直しを行う予定である。

(委員長 金沢 至)

8. 日本昆虫目録編集委員会報告

1. 日本昆虫目録の最初の出版となる蝶類の号が出版された。
2. 上記に引き続いて、無翅昆虫類や蜻蛉目の出版を予定しているが、粘管目について図鑑の出版が予定されていて、この出版の後に無翅昆虫の巻の出版が可能となる。
3. 双翅目の巻については担当編集委員の尽力により、原稿が順調に集まっているので、上記無翅昆虫類や蜻蛉目とならんで出版できる見通しである。
4. その他の目については、担当編集委員の今後の尽力に期待している。
5. 蝶類の号より後の出版については、編集出版方法を編集委員会で検討する。

(委員長 三枝豊平)

9. 将来問題検討委員会報告

日本昆虫学会将来問題検討委員会 答申

平成25年7月17日
将来問題検討委員会委員長 秋元 信一

1. 「選挙制度の検討」に対する答申

昆虫学会の選挙制度に関して、委員会ではメールによる会議を行ったが、十分な議論には至らなかった。また、選挙制度の変更に積極的に賛成する意見は提出されなかった。そこで、本答申では、「早急に選挙制度の変更を行わない」とする案を選択する。しかしながら、選挙制度に関する重大な問題は今後に残るために、問題点を会員に周知し、議論を継続していくことを提起する。

以下では、委員会での議論をもとに、投票率が低下している要因について分析し、その後、選挙制度改正に関して3つの暫定案と変更に伴うデメリットについて述べる。

「分析」 評議員選挙の投票率が低下しているのは、学会全体に関する関心が低下している

というよりも、会長候補、評議員候補に関する情報が会員に行き渡っていないことが根本的な問題だと指摘があった。実際問題として、誰に投票して良いのかよくわからない状況があれば、選挙制度をいかに改正しようが、また電子投票システムを導入しようが、投票率の改善は見込めないであろう。とりわけ、学生、若手にとっては、学会長選挙や評議員選挙は身近な問題としてとらえられないため、情報が与えられなければ、意欲的に投票しようとは考えない。経験を積んだ会員も、近年は投票に際して積極的に働きかけを行うことを避ける傾向があることから、とりわけ若手が選挙の際に情報不足に陥っていると考えられる。そこで、今後執行部は、投票を呼びかけるだけでなく、各評議員に対して、積極的に選挙活動（推薦活動）を呼びかける必要があるのではないかと。

委員会内で、選挙制度の改正に関していくつかの案を提示してみたものの、全くというほど反応がなかった。これほど反応がないのは、多くの委員が選挙制度改正をするまでの状況に至っていないと判断し、慎重な姿勢を取っているものと推察している。そこで、選挙制度の改正に取り組む前に、支部活動を活性化させ、支部内の意見交換を活発化させることを目標にすべきことを提言したい。

少数の得票によって評議員が選ばれている支部も確かに見受けられるが、詳細に見ると、その支部の投票率は必ずしも低くない。実際に、投票先が分散したための現象であり、投票率がきわめて低くない限りは、憂慮される状況ではないと判断される。

「検討した選挙制度改革案」

案1 会員数の少ない支部を近隣の支部と合併する

案1の問題点 影響が大きい。規約の変更が必要となり、大会開催の順番が変更を受ける。評議員数も減少となり、新定員もあらためて議論しなければならない。当事者である支部の意見も十分に取り入れる必要がある。

案2 現在の支部は維持し、会員数の少ないA支部の選挙区と近隣B支部の「選挙区」を合併する。A支部とB支部の各会員は、A支部から2名、B支部から2名(計4名)に投票する。

案2の問題点 B支部の多数の会員がA支部の被選挙人に投票してくれればよいが、他支部の被選挙人への投票率が低くなると、現状と変わらない可能性がある。また、特定の支部の会員だけに最大4名を投票する権利を与えるのは、公平の観点からも問題が残る。選挙方法が複雑また小手先の修正であり、周知徹底が難しく、選挙細則の変更も簡単にはできない。さらに、1組の支部合併で良いのか、それ以上の合併が必要かも議論しなければならない。当事者である支部の意見も十分に取り入れる必要がある。

案3 現行の選挙制度に手をつけない。各支部内部での推薦活動を活発化させることを通じて、投票率を高める方向に誘導する。

これら3案のうち、案1と案2を支持する意見はなかった。そこで、消極的な選択ではあるが、「現行選挙制度に手をつけない」案を選択した。

2. 「学会の授与する各賞のありかた 学会賞・若手奨励賞・あきつ賞の位置づけについての検討」に対する答申

学会賞に関する議論に関しても、十分な議論が行われたわけではないが、メールを通じた会議で、ある程度の合意には至っていると判断している。昆虫学会大会時の将来問題検討委員会の場で以下の案を確認、あるいは若干の修正を行い、最終的な提言としたい。

「分析」 現学会賞は、学会誌(Ent. Sci.と和文誌)に掲載された論文の中から特に優れた論文の著者に与えられている。現行制度は15年継続してきたものであるが、問題は、学会員以外

でも学会賞の対象となり、何度でも、何人でも受賞できるという特徴にある。近年、若手奨励賞が創設され、優れた仕事を行った若手個人会員が受賞対象となった。若手奨励賞の創設によって、「学会賞」の位置づけが難しくなり、学会賞よりも、むしろ若手賞のほうが重みを持つと受け取られることもある。一方、あきつ賞については、現在は、電子化推進委員会から与えられる賞となっており、賞の意味合いが明確ではないものとなっている。

学会賞に対する改革案

現在の問題点を考慮し、将来問題検討委員会では、以下の改革案を提起する。

- (1) 現在の学会賞は、「昆虫学会論文賞」として位置づけ、受賞対象者は現在と同様とする。
- (2) あきつ賞は、昆虫学会が授与する賞と位置づけ、会長から賞が授与される形式とする。
- (3) 若手奨励賞は現状維持とする。ただし、(4)案を考慮し、名称を再考する必要がある。さらに、年齢の上限について再考の余地がある。
- (4) 現在の「若手奨励賞」は、若手というよりも40才までの中堅研究者向けの賞となっており、当初念頭においていた博士号を取りたての若手は「若手奨励賞」に採択されにくくなっている。そこで、若手奨励賞とは別に、博士課程学生や博士号取得後数年までの若手の全業績を対象とした「奨励賞」（名称は別途議論）を創設することを検討すべきである。

現在の学会賞が創設された当時の評議員会では、会員個人の全業績を評価する「学会賞」は作らず、代わりに論文に対する賞の創設が支持された。昆虫学会評議員会の見識を引き継ぐならば、会員個人の全業績を評価する「学会賞」よりも、若手を重視した賞を創設すべきであろう。

3. 「ジェンダーバランスの改善策」に対する答申

昆虫学会には、女性会員の比率が低い状態が続いているが、これを是正する案は、すぐには見当たらない。現在のジェンダーバランスは、社会の伝統的価値観によるところも大きく、そもそも大学の学部レベルで、昆虫関連の学問を専攻する学生のジェンダーバランスに大きな偏りがある。博士号の取得や、就職に際して女性が特に不利になるのであれば問題であるが、現時点では、そのような問題はほぼ是正されている。女性対象の学会賞、評議員を創設しても、公平性の観点からむしろ別の問題が生じる可能性もある。そこで、今回、具体策の検討は見送った。

4. 「会員の増加策」に対する答申

今回は、会員増加策を議論する時間的余裕がなかったが、本問題の検討は前委員会から引き続き行われており、今後もメール会議により、具体案を提起し、本年中に答申案をまとめる予定である。

前委員会での議論の結果は、73回昆虫学会大会で実行に移されており、高校生ポスター発表の創設につながった。

(委員長 秋元信一)

10. 日本 ICIPE 協会に関する報告

1) 2012 年度活動報告 (2012 年 1 月 1 日～2012 年 12 月 31 日)

3 月 28 日 第 56 回日本応用動物昆虫学会大会にあわせて総会開催

同日 第 18 回 ICIPE 研究報告会「アフリカの昆虫学の話しよう」を以下の内容で開催。

1. 湯川淳一（九州大／元イシペ理事）
国際昆虫生理生態学研究センター（icipe）の理事を退任して
2. 藤崎憲治（京都大）
icipe 創立 40 周年記念会議参加報告

3. 皆川昇（長崎大・熱帯医学研究所）
西ケニア・ビタ地区におけるマラリア媒介蚊とその制御
 4. 足達太郎（東京農大）
アフリカにおける長距離移動性害虫の生理・生態学的特性とその管理技術
- 7月14日 日本 ICIPE 協会が日本昆虫科学連合に加盟.
 11月5～8日 皆川理事が ICIPE 理事会に出席.
 12月31日 『ICIPE News』 No.26 を発行.

2) 2012 年度会計報告（2012 年 1 月 1 日～2012 年 12 月 31 日）

		金額	備考
収入	前年度繰越金	884,955	
	個人会員会費	46,000	2000円／人／年
	雑収入	155	利息，寄付金
	小計	931,110	
支出	事務通信費	210	送料，振込手数料
	日本昆虫科学連合年会費	20,000	
	総会費	4,500	弁当代
	小計	24,710	
残高		906,400	次年度繰越金

3) 科学研究費等採択状況（2013 年 8 月 1 日現在）

- ・科学研究費補助金基盤研究（B）（海外学術調査）；課題名：アフリカにおける長距離移動性害虫の生理・生態学的特性と管理技術；研究代表者：足達太郎（東京農業大学）；期間：2012 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日(予定)
- ・国際共同研究人材育成推進・支援事業（中・長期派遣）；課題名：サバクトビバッタの食草利用特性と群生相化メカニズムの解明；代表者：前野浩太郎；期間：2012 年 11 月 30 日～2014 年 3 月 1 日

4) 入会手続きについて

協会規約では、「本会に入会しようとするものは、事務局に申し込み、運営委員会の承認をえる」（第 6 条）ことになっている。かつては、ICIPE に派遣された研究者が帰国後になかば自動的に協会に入会していたが、2005 年に学振による研究者派遣が終了してからは、このようなかたちで入会する事例はなくなった。いっぽう最近では、ICIPE とは無関係にアフリカで研究活動を実施する人たちや、アフリカでの研究に興味をもつ人たちが、研究情報の収集や研究者との交流をもとめて入会を希望する事例がふえている。2013 年 3 月 28 日に開催された 2013 年度総会ではこのような現状をふまえ、当面は規約を改正することはせずに、弾力的に運用し、希望者は随時入会できるようにすることを承認した。具体的には入会申込書に所定の項目を記入し、年会費を支払ったものには入会をみとめる。

5) 協会の今後の役割・ありかたについて

学振による ICIPE 派遣事業がなくなった現在、なんらかの事業計画なり活動方針なりをうちださないかぎり、協会は存在意義を失ってしまうと言わざるを得ない。2013 年度総会では、この問題について種々議論がなされたが、明確な結論には至らなかった。

6) 昆虫学会選出委員

田中誠二，佐藤宏明，足達太郎

（日本 ICIPE 協会 佐藤宏明）

11. 自然史学会連合に関する報告

1. 要望書等： 1) 6 月 11 日付の生物科学連合による緊急声明「『日本版 NIH』構想における資源配分と人材育成プロセスへの懸念」へ自然史学会連合として賛同するとともに、加盟学協会にも賛同を呼びかけた。 2) 日本植物分類学会の依頼に応じ、6 月 13 日付で、「印西市

「千葉ニュータウン 21 住区開発用地(通称, そうふけつばら)」の生物多様性保全を求める意見書」に対する賛同書を, 千葉県知事に提出した。

2. 後援等: 5月1日に日本第四紀学会より 2015 年に名古屋で開催される国際第四紀学連合第 19 回大会の共催(費用負担なし)を依頼され, 承認した。
 3. 副読本: 先の総会で承認された自然史副読本の構成を検討するため, 1月に各加盟学協会から 1名の編集委員を選んでもらうよう依頼した。3月17日に学研本社ビル(五反田)に委員が集まり, 内容を検討する会合を開いた。現在, 学研社内では企画案について検討中。
 4. 本年度の自然史学会連合主催の一般向け講演会を, 7月28日(日)に沖縄県立博物館・美術館にて開催した。テーマは「みる! きく! さわる! 博物館~五感で感じる生物多様性~」。詳細は自然史学会連合ホームページを参照のこと (<http://ujsnh.org/sympo/2013/index.html>)。
- (自然史学会連合 昆虫学会代表 清水 晃)

12. 日本分類学会連合に関する報告

- 1) 第 12 回の総会は本年 1 月 12 日(土)国立科学博物館本館講堂(上野)で開催され, 決算・予算案ならびに本年度事業計画の審議がおこなわれた。同日午後には同会場で「自然史標本の公的保護を目指して」というテーマで, また翌 13 日(日)午前には「分類学が改めて「種」と向き合う時」というテーマで, いずれも日本学術会議ならびに国立科学博物館との共催で公開シンポジウムが開催され, 多数の参加者があった。
- 2) GBIF ワークショップ 21 世紀の生物多様性研究(2012 年 12 月 15 日開催)を後援した。
- 3) 2013 年から「生物科学学会連合」に加盟することを決定した。同連合を通じ「日本版 N I H (仮称)」構想(基礎科学へ回る科研費の大幅な削減の可能性)に対する危惧を表明する声明を発表した。また同連合「教科書問題検討委員会(仮称)」への委員候補として, 富川光 氏(広島大学)を推薦した。
- 4) 昆虫科学連合主催シンポ(2013 年 7 月 20 日開催)に協賛した。
- 5) 加盟各学会に対し, 財政的に危機に瀕している動物命名法国際信託への募金活動への協力を検討するよう要請した。昆虫学会としては「動物命名法国際信託への募金をお願い」を「お知らせメール」第 6 号として配信するとともに, 昆虫ニューシリーズ第 16 巻第 3 号(2013 年 7 月発行)に同記事を掲載した。
- 6) 日本分類学会連合ニュースレター 21, 22, 23 号を刊行した。昆虫学会ホームページにもリンクされている連合のホームページ(<http://www.bunrui.info/>)から最新号までのニュースレターをダウンロードできる。
- 7) 運用開始 10 年目のメーリングリスト TAXA は, 本年 6 月末現在, 登録者数 998 名。昨年 7 月から 24 名増加した。
- 8) 第 13 回総会・シンポジウムは 2014 年 1 月 11 日(土)に開催を予定しているが, 会場およびシンポジウムのテーマについては, 7 月末現在, 未定である。その他の様々な情報については連合のホームページをご覧ください。

(日本分類学会連合 昆虫学会代表 篠原明彦)

13. 国際昆虫学会会議に関する報告

第 25 回国際昆虫学会会議は, 2016 年 9 月 25~30 日に, アメリカ合衆国フロリダ州のオーランドで開催される。 <http://www.ice2016orlando.org/>

(国際昆虫学会会議 評議員 沼田英治)

14. 昆虫科学連合に関する報告

2013 年度総会が 2013 年 7 月 20 日(土)に九州大学創立五十周年記念講堂大会議室において行われた。今回から「日本家屋害虫学会」は「都市有害生物管理学会」と名称が変更となった。

2012 年度決算, 2013 年度予算案の承認のあと, 2012 年度事業報告として, 昨年度大会での既報告以外に以下の報告が行われた。1) 役員会を開催し(2012 年 10 月 12 日), 事務局運営委員を任命した, 2) ウェブサイトに歴代役員・運営委員を掲載した。

2013 年度事業として, 1) 総会および公開シンポジウムを開催する, 2) 「昆虫科学」に関する普及書の出版, 3) 「日本版 NIH 構想」に対するコメントの表明, 4) シンポジウム運営委員

会により、2014 年度シンポジウムの企画および準備を進める、ことが承認された。3) については各学協会が 8 月末をメドに審議の上報告をすることになった。

事務局運営委員（敬称略）として、庶務 高梨琢磨（森林総合研究所）、会計 野下浩二（秋田県立大学）編集 藤井 毅（東京大学農学部）、光野秀文（東京大学先端科学技術センター）、アドバイザー 塩月孝博（農業生物資源研究所）、同 日本典秀（農研機構 中央農業総合センター）が紹介された。

総会後に、日本学術会議応用昆虫学分科会との共同主催による、公開シンポジウム「昆虫分類学の新たな挑戦」を開催し、カナダ・ゲルフ大学の Hebert 博士ほか 8 講演が行われた。

（日本昆虫科学連合 日本昆虫学会代表 多田内修）

15. 選挙管理委員会報告

1. 2013～2014 年度選挙管理委員会

選挙管理委員会規程第 2 条に基づいて、選挙管理委員会が発足した。委員長：小野正人（副会長：玉川大学農学部）、委員：小島弘昭（東京農業大学農学部）、矢後勝也（東京大学総合研究博物館）、石川 忠（東京大学大学院広域システム科学系）、原野健一（玉川大学学術研究所）、渡部美佳（玉川大学農学部）。

2. 近畿支部評議員の欠員補充

広渡俊哉評議員が近畿支部から九州支部へ転出し、会則 17 条 2 に基づき、評議員としての地位を去った。これに伴う近畿支部評議員の欠員に関して、選挙細則 13 及び 14 に基づき、2013 年 5 月 8 日に開催された選挙管理委員会において同数得票の補欠者 2 名の会員（敬称略：加藤真、平井規央）を対象に抽選を行ない、加藤真を当選者とし、5 月 9 日に評議員に報告した。

（委員長 小野正人）

II. 協議事項

1. 2012 年度決算、会計監査報告：別紙 2,3 のとおり承認された。

2. 日米昆虫学会相互会員制度の締結が承認された。

合意書の要約：

日米昆虫学会は 2014 年 1 月 1 日から 2015 年 12 月 31 日までの 2 年間、相互会員制度を導入することに合意した。本制度により、本学会の学生正会員はアメリカ昆虫学会（以下 ESA）学生会員となることができる。ESA 学生会員の権利の一部は以下のとおり（詳細については ESA のホームページ <http://www.entsoc.org/> を参照のこと）

- ・ESA 発行のすべての定期刊行物へのオンラインアクセス権
- ・ESA 年次大会参加費の減免
- ・ESA 出版物への論文掲載料の減免

前年 11 月末日までに本学会会費を前納した学生会員は自動的に次年度の相互会員となる。

また、本制度により、ESA 学生会員は Entomological Science へのオンラインアクセス権を得るとともに、希望者には日本語のお知らせメールを配信する。

3. ウェブサイト・会員管理システムの移行にかかる経費および日米相互会員制度にかかる経費を特別会計より支出することが承認された。

4. 2014 年度予算：別紙 4 のとおり承認された。

5. 2014 年度第 74 回大会開催地および 2015 年度第 75 回大会開催地について、次のように提案され、承認された。

- ・昆虫学会第 74 回大会(2014 年) 中国支部

大会日程：2014 年 9 月 13 日（土）- 16 日（火）（但し 13 日は役員会を予定）

大会会場：広島大学教育学部（〒739-8524 東広島市鏡山一丁目 1 番 1 号）；大会会長：三浦一芸

- ・昆虫学会第 75 回大会(2015 年) 九州支部

大会日程：未定

- ・その後の予定 76 回大会（2016 年）-近畿支部
 77 回大会（2017 年）-四国支部
 78 回大会（2018 年）-東海支部

6. 次期編集長として秋元信一会員（北海道大学）が推薦され，承認された．

7. その他

- ・ 2013 年 7 月 17 日付将来問題検討委員会の答申を受け，学会賞を学会論文賞とすること，あきつ賞を学会から与える賞とすることについて，昆虫学会執行部で検討することとなった．
- ・ 2016 年以降の英文誌出版委託契約については，複数の出版社と交渉することとなった．
- ・ 将来問題検討委員会規定第 6 条に基づき，法人化を検討するワーキンググループを立ち上げる事となった．

2013 年度総会報告

日時 2013 年 9 月 14 日（土） 14：15—15：30

場所 北海道大学 クラーク会館大講堂

議長 大原昌宏（北海道支部評議員）

I. 報告事項

1. 会務報告：評議員会報告会務報告に同じ
2. 協議事項報告：評議員会報告協議事項報告に同じ．

II. 協議事項

1. 2012 年度決算，会計監査報告：別紙 2, 3 のとおり承認された．
2. 2014 年度予算が別紙 4 のとおり承認された．またウェブサイト・会員管理システムの移行にかかる経費および日米相互会員制度にかかる経費を特別会計より支出することが報告された．
3. 2014・2015 年度大会開催地について承認された．評議員会協議事項 5 を参照のこと．

別紙1**2013年度会計中間報告（2013年7月25日現在）****一般会計****単位（円）**

	実績	予算
収入	8,585,543	11,670,000
支出	7,113,521	11,670,000
差引残高	1,472,022	

特別会計**単位（円）**

収入	基金元金	基金利子	積立金	合計
前年度繰越金	20,225,077	907,686	0	21,132,763
寄付金			0	
積立金			0	
利息			0	
合計	20,225,077	907,686	0	21,132,763
支出	0	0	0	0
差引残高	20,225,077	907,686	0	21,132,763

日本昆虫学会2012年度一般会計収支決算書

(2012年1月1日～12月31日)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
収入の部			
会費	11,000,000	10,655,000	345,000
出版物売上金	80,000	110,385	△ 30,385
英文誌売り上げマージン	330,000	326,756	3,244
広告料	250,000	230,000	20,000
科研費出版補助金	0	0	0
雑収入	50,000	412,618	△ 362,618
利息	0	473	△ 473
繰入金	0	20,000	△ 20,000
小 計	11,710,000	11,755,232	△ 45,232
前年度繰越金	0	△ 2,254,415	2,254,415
合 計	11,710,000	9,500,817	2,209,183

支出の部

会誌費	8,750,000	8,174,225	575,775
出版委託費	5,600,000	5,280,000	320,000
印刷費	2,000,000	1,696,632	303,368
編集費	600,000	600,000	0
送料	550,000	597,593	△ 47,593
大会援助金	300,000	300,000	0
会議費	0	0	0
旅費	0	0	0
渉外・図書費	0	0	0
自然保護委員会	25,000	25,000	0
将来問題検討委員会	0	0	0
電子化推進委員会	40,000	38,850	1,150
学会賞賛金	130,000	130,000	0
事務費	50,000	185,820	△ 135,820
業務委託費	2,000,000	1,653,997	346,003
選挙費	165,000	240,272	△ 75,272
各種団体協力金	50,000	50,000	0
予備費	200,000	157,800	42,200
小 計	11,710,000	10,955,964	754,036
次年度繰越金	0	△ 1,455,147	1,455,147
合 計	11,710,000	9,500,817	2,209,183

貸借対照表 (2012年12月31日現在)

貸 方		借 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動負債		流動資産	
前受会費	5,195,000	郵便振替口座	1,086,015
		三菱東京UFJ銀行福岡支店	855,179
前年度繰越金	△ 2,254,415	三菱東京UFJ銀行江戸川支店	1,836,516
当期収支差額	2,305,657	現金管理分	13,385
次年度繰越金	△ 1,455,147		
	3,791,095		3,791,095

財産目録 (2012年12月31日現在)

<資産の部>

科 目	摘 要	金 額
郵便振替口座		1,086,015
三菱東京UFJ普通	三菱東京UFJ銀行福岡支店	855,179
三菱東京UFJ普通	三菱東京UFJ銀行江戸川支店 (国際文庫印刷社管理口座)	1,836,516
現金管理分	現金管理分	13,385
合 計		3,791,095

<負債の部>

科 目	摘 要	金 額
前受会費	2013年度分(2014年度分1万円を含む)	5,195,000
合 計		5,195,000

収入－支出 △ 1,455,147 円 2013年度へ繰越

上記のとおり、収入支出金額について関係書類を監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

2013 年 7 月 25 日

監査

中 尾 史 郎

監査

大 島 一 正

別紙 3

日本昆虫学会2012年度特別会計収支決算書
(2012年1月1日～12月31日)

<基金元金>

科目	予算額	決算額	差異
収入の部			
寄付金	0	0	0
前年度繰越金	20,225,077	20,225,077	0
合計	20,225,077	20,225,077	0
支出の部			
次年度繰越金	20,225,077	20,225,077	0
合計	20,225,077	20,225,077	0

<基金利子>

収入の部			
利息	0	0	0
前年度繰越金	977,686	977,686	0
合計	977,686	977,686	0
支出の部			
国際会議渡航旅費補助金	150,000	50,000	100,000
一般会計への繰入金	0	20,000	△ 20,000
次年度繰越金	827,686	907,686	△ 80,000
合計	977,686	977,686	0

貸借対照表(2011年12月31日現在)

貸 方		借 方	
科目	金額	科目	金額
流動負債		流動資産	
基金元金	20,225,077	普通貯金	21,132,763
基金利子	907,686		
	21,132,763		21,132,763

財産目録(2011年12月31日現在)

<資産の部>

科目	摘 要	金額
普通貯金	三菱東京UFJ銀行福岡支店(決済専用)	21,132,763
合計		21,132,763

<負債の部>

科目	摘 要	金額
基金	元金	20,225,077
合計		20,225,077

収入-支出

21,132,763 円 2013年度へ繰越

上記のとおり、収入支出金額について関係書類を監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

2013年 7月 25日
監査

中尾 史郎

監査

大島 一正

別紙4**2014年度予算****一般会計****単位(円)**

収入	
前年度繰越金	0
会費	10,200,000
出版物売上金	100,000
英文誌売上げマージン	330,000
広告料	250,000
科研費出版補助金	0
雑収入	80,000
利息	400
合計	10,960,400

特別会計**単位(円)**

収入	
前年度繰越金	21,132,763
基金元金	20,225,077
基金利子	907,686
利子	0
合計	21,132,763

単位(円)

支出	
会誌費	8,200,000
英文誌出版委託費	5,200,000
和文誌印刷費	1,800,000
編集費	600,000
送料	600,000
大会援助金	250,000
会議費	0
旅費	0
渉外・図書費	0
自然保護委員会	25,000
将来問題検討委員会	0
電子化推進委員会	100,000
学会賞賞金	130,000
事務費	150,000
業務委託費	1,650,000
選挙費	300,000
各種団体協力金	50,000
予備費	105,400
合計	10,960,400

単位(円)

支出	
ESA学生相互会員	76,000
ウェブ新システム構築	350,000
次年度繰越金	20,706,763
合計	21,132,763